

事業の延長線上にある社会貢献の芽

—— 中特ホールディングス ——

編集部

SDGsを事業に取り込むときは「持続可能」を踏まえる必要があり、既存事業の守備範囲を広げることで成功している企業も多い。ここに紹介する中特ホールディングス（山口県）もその一つだ。地元が日々抱える課題を地道に解決していくというスタイルで、社員のやる気を引き出す効果も実感している。同社企画広報室長でグループ会社、吉本興業代表取締役の吉本妙子氏に地域貢献活動を通じて得た効果などについて話を聞いた。

——地域貢献活動を通じて様々な取り組みをされているそうですね。SDGsとの結びつきについて教えてください。

日常から地域の課題と向き合う中で、新たな発想が生まれたり、既存の取り組みを発展させたりしています。当社の取り組みがSDGsとして捉えるならば、これまで行ってきた取り組みが時代の要求と合致してきたのではないのでしょうか。

地域の課題解決を主体に考えていくことはCSV（企業が社会と共有できる価値を創造すること。また、社会課題への取り組みで「社会的価値の創造」と「経済的価値の創造」の両立で企業価値向上を実現すること）が基盤になっています。当社がSDGsを語る場合はまずは、このCSVへの取り組みから話さなければなりません。

SDGsの取り組みを実行に移すときは、一般的なビジネスモデルと異なり、社会の課題解決を起点にビジネスを創出するといった「アウトサイドイン」による展開が求められています。CSVに取り組む中で従来からアウトサイドインの考え方は浸透していました。



社会課題を解決することこそがSDGsだと考えていますと話す吉本氏

——地域貢献活動を進める上で部署の設置など、組織体制を改めましたか。

企画広報室で広報活動を行なっていますが、特別に体制を構築していません。全社員が少しずつ時間を割いて取り組んでいます。



毎年勤労感謝の日に行われる「こどもっちゃ商店街」という職業体験イベントを通じて環境教育が行われている



分別作業が体験できる「こどもっちゃ商店街」には3年連続で参加している子もいるという

——SDGs への取り組みのアピールはどの様にされていますか。

SDGs への取り組みが環境産業分野にも広がっていく中で、当社の取り組みもSDGs が示す目標に照らし合わせて整理してみようと、毎年発行しているCSR 報告書の中でSDGs の17の目標項目に合わせ明記しています。これが唯一のアピールでしょうか。SDGs とは何かの説明されていく中で、整理されていなかった取り組みがSDGs の17項目と照会することで当社の事業活動や社会貢献活動の意義や内容がより鮮明になりました。

また、社内的にも推進しているCSR 検定受験への取り組みも効果があったと思います。わかっているつもりでいたことが、改めて学ぶことによって知識の深度を増していくと感じています。

——CSR 報告書に明記したことで変化はありましたか。

結果的に社内外に良い変化がみられています。社外にはまず、営業担当がこの報告書を持参し訪問した際に、お客さまへ

SDGs (CSR) の取り組みを説明しています。CSR 報告書を発行当初は、営業担当がCSR への取り組みをお客さまに説明する理由がピンとこなかったようですが、続けていく中で「中特はこんなこともするのか」とお客さまの対応が少しずつ変

わってきたことを感じたようです。お客さまから得られたこの手ごたえから、社員たちはこれまで日常的に取り組んできた社会貢献活動が社会的に認知されていることに気がだしました。これまでの社会貢献活動がSDGs によって明文化されたことで会社全体の士気が高まっていると思います。特に、山口県立図書館からこのCSR 報告書を郷土資料として開架資料にしたいと依頼があった時には、当社の事業に様々な方から興味を持っていただいていると実感しました。

——長期間取り組まれている環境教育はSDGs 4 や11、12 など、SDGs の目標達成に向けて意義のある取り組みだと思えます。

環境問題の解決は、子どもに教える方が近道です。周南市は2010年から一般廃棄物の分別がとても細くなったのですが、市民への周知は不十分でした。こうした状況からごみを実際に分別しなければならない親御さんの悩みを解決するために、子どもたちを通じて分別を理解してもらおうと小学校へ出向いての環境出前授業を企画しました。昔の3Rの考え方、今の3Rの考え方などの変化を子どもたちに理解しやすい資料にして臨みました。

収集運搬業務の担当者が、講師を務めるので、収集作業中に環境学習で顔見知り

なった子どもたちに声をかけられると、社員も環境学習をすることに誇りが持てると言っています。

また、子どもたちに教えることで、全体的な環境保全への意識を高めていると実感しています。教える張り合いというのも日々感じていて、電池などをキッチンと分別しないと火災事故が起こることを丁寧に説明するのですが、授業を終えて子ども達の感想文をみると、理解されているのがわかって励みになります。私どもはこの感想文を「宝物」と言っているのですが、担当者はこの感想文のお陰でもっとわかりやすく説明しようと、資料の作成にも熱が入るようです。

——廃棄される食品を集めて必要な方に提供するフードバンク事業も立ち上げられました。SDGs1、2、3、12に対応した取り組みです。始められたきっかけを教えてください。

地域の子どもが利用する子ども食堂などの運営にはフードバンクで集められた食品が不可欠になっています。

山口県には従来からフードバンクの仕組みがあるのですが、当社のある周南地区には拠点がなく、周南エリアに新設が望まれていることを知り手を挙げました。経営者として冷静に考えると、廃棄物自体が減るわけですから、収益に影響するのですが、そんなことを考えている場合ではないと判断しました。社会的に問題になっている食品ロスの削減と子どもの貧困とを同時に解決できる画期的な取り組みです。私たちができることをしようと思いました。社外のボランティアの方にも参加ご協力いただいています。市内のスーパーに窓口のポストを設置し、買い物ついでに一般の市民の方から、自分では食べないがまだ食べられる食品などを寄贈してもらっています。昨年7月から開始して今年1月末で2.3tの食品をお預かりしました。また、企業からは消費期限がせまった災害備蓄品や、箱が潰れて販売できないなどの規格外品などの寄贈

もいただいています。

——終活事業はいかがですか。

山口県でも周南地区は高齢者の割合が高く、グループ会社の吉本興業では8年程前から本格的に遺品整理サービスを行うようになりました。（現在では新会社の㈱ポータルハートサービスが行っている）ご依頼をいただく中で、遺品整理は残された遺族の方の負担がとて大きく、故人様の想いも届かないまま、遺族の方がとて辛い思いをされる事例に多く接してきました。これらの辛い事柄を少しでもなくしたいという想いから終活事業はスタートしました。人生を振り返り今から先を考えるために自分の考えを記しておくエンディングノートの書き方についてもセミナーを開催し理解を深めてもらっています。

——どのようなセミナーですか。

とても前向きな楽しいセミナーです。市内の200ほどの自治会の集まりにうかがったり、カフェなどのオープンスペースで行ったりしています。具体的には当社の通常業務でカバーできる範囲で支援できることで対応しています。リピーターの方や、子どもさんの勧めで参加されている方もいます。

終活は、本人はもちろん、子どもや親族も関係しますから、とくに高齢者を親に持つ子ども世代の方が参加されて、親を誘って一緒に受講していただくのが理想です。お孫さんに誘っていただくのも良いと思います。実際、親が亡くなったあとのことに



終活セミナーは和やかな雰囲気の中進められる



エコフェスではエコ工作にも熱がはいる



エコフェスでは子どもにもSDGsについて学んでもらっている

は不安があるはずですが。ご本人も他界した後の自身の尊厳を守るために知っておくべきことを解説します。

楽しく話をしながらエンディングノートを書いていき、いつの間にか出来上がるといった感覚です。調べによると、実際にエンディングノートを書いている方は、3%程しかいません。極端なことをいうと、まさか将来自分が死ぬなんて想像さえしていない方が案外多くいらっしゃいます。しかし、こういう方こそ備えた方がいいはずですが。そのためにもセミナーは今後も続けていくつもりです。

——業務の延長線上にない新しい取り組みに興味はありますか。

経団連が進めている「Society 5.0 for SDGs」に沿って取り組まれている企業がありますが、当社は地域密着の日常業務から課題の断片を拾い集め、実行力をもって、課題解決に進んでいます。既存事業を無理せず加速させて行きます。もちろん、新しい取り組みも必要ですが、既存事業の周りに、まだまだ課題は山積しています。

——まずは見える範囲でことを進めない方向性を見誤るといえることですね。

そう、持続可能という所にフォーカスしなければなりません。一人ひとりができることに少しずつ取り組んでいくために社員の意識を変えていくことが必要です。

——社会貢献活動を通じて改めて本業への効果を聞かせて下さい。

様々な取り組みを通して広く名前を知って頂けるようになったのが効果ではないでしょうか。本業の業務で担当となった方が、イベント等でコミュニケーションをとった方だったりすると、当社への印象を深く刻まれているように感じます。売上が増えたなどという具体的な効果ではなく、困った時に当社をまず思い浮かべてもらえる存在になりつつあります。行政や企業や地域の団体から環境などに関係するイベントの参加にもよく声を掛けて頂けるようになりました。当社を沢山の方に広く知って頂くという面で効果があったと思っています。

最近ではクリーンアップ活動が活発化してきました。グループ内の各社が能動的に清掃活動に取り組んでいます。お客さまからの要望もあり、地域の方にご協力いただきながら進めています。

——最近、ISO45001も取得されたと聞きましたが…。

このたび1月にISO45001を取得し、より安心安全な会社として地域に必要とされる会社となってきました。当社代表の橋本ふくみが、「社会に必要とされる会社、社会に役に立つ会社こそが継続していく。そして、会社が継続することで社会に役に立つことが出来る。」と唱えています。それを今後も社員と一緒に取り組んで参ります。